

麻酔科

1. スタッフ (2021年4月1日現在)

科 長(教 授)	竹内 護 (子ども医療センター兼任)
	(教 授) 鈴木 昭広 (周術期部門)
外来医長(教 授)	五十嵐 孝 (ペイン・周産期部門)
	(手術部副部長兼任)
医 員(准 教授)	多賀 直行 (子ども医療センター兼任)
	(准 教授) 堀田 訓久
	(准 教授) 佐藤 正章
	(講 師) 末盛 智彦 (子ども医療センター兼任)
	(講 師) 平 幸輝 (中央手術部兼任)
	(助 教) 大塚 洋司 (留学中)
	(助 教) 永川 敦士
	(助 教) 永野 達也 (子ども医療センター兼任)
	(助 教) 島田 宣弘
病院助教	篠原 貴子 (子ども医療センター兼任)
	方山 加奈
	吉積 優子
	橘木 浩平 (子ども医療センター兼任)
	杉本健三郎
	芝 順太郎
	須藤 智幸
	高橋 深雪
	原 鉄人
	時任 利奈
	山本 令子
	藤田 裕壮
	山田 衣璃
	平岡 希生
	村田 英崇
シニアレジデント	10名

2. 診療科の特徴

麻酔科の主たる業務は、当院および子ども医療センターの手術室での麻酔管理である。一方、手術室外でも血管内治療部での脳外科患者のカテーテル治療や出血コントロール困難患者の塞栓術、小児先天性心疾患のカテーテル検査・治療や、安静保持が困難な小児のMRI検査・放射線治療室など様々な場出張麻酔の要望に対応している。集中治療部やHCUとは日常的な人材交流に加え、気道緊急症例や全身状態不良症例の応援対応も行っている。

2020年の総手術件数は9969件で、当科管理症例は7942件、うち全身麻酔症例は7054件であった。本年からは2019年秋から稼働している新館南棟の4室を用い、ロボット支援下手術の並列実施を開始し、2列の臨

時手術列も併せ新設することで、より定時外手術にも柔軟に対応している。

本年は栃木県内でもコロナウイルスの大幅な流行を認め、手術室制限や緊急手術受け入れを県下の他院が行った結果、緊急手術が増加し、県内感染者の手術例も陰圧室である13号室で十分な準備の上、無事終えることができた。

その他今年から周術期疼痛管理チーム(含看護師、専属クラーク)を発足し、術後病棟回診により早期離床に向けた管理に向けた評価・介入を行っている。

・施設認定

日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設

・認定医

厚生労働省麻酔標榜医	竹内 護	他31名
日本麻酔科学会認定医	田中 諒子	他6名
日本麻酔科学会専門医(含む機構専門医)		
	橘木 浩平	他14名
日本麻酔科学会指導医	竹内 護	他13名
日本ペインクリニック学会専門医		
	鈴木 昭広	他4名
日本集中治療医学会専門医	竹内 護	他5名
心臓血管麻酔専門医	竹内 護	他6名
日本区域麻酔学会認定医	堀田 訓久	他3名
日本臨床麻酔学会インストラクター(神経ブロック)		
	堀田 訓久	
日本小児麻酔学会認定医	竹内 護	他5名
日本蘇生学会蘇生法指導医	鈴木 昭広	他1名
日本救急医学会専門医	鈴木 昭広	他1名
日本小児科学会専門医	橘木 浩平	
日本外科学会外科専門医	芝 順太郎	
日本周術期経食道心エコー認定医		
	鈴木 昭広	他5名
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医		
	佐藤 正章	
日本緩和医療学会認定医	島田 宣弘	
American Society of Anesthesiologists, member		
	竹内 護	他1名
International Anesthesia Research Society, member		
	竹内 護	他1名
European Association of Cardiothoracic Anaesthesiologists, member		
	竹内 護	

The Society of Critical Care Medicine, member
多賀 直行

その他のブロック	302回
鍼	475回
透視下各種ブロック	7回
スーパーライザー等	861回
点滴	105回
その他の処置	24回

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	55人
再来患者数	2,903人
紹介率	59.6%
手術患者外来術前診察	5628人
鍼灸外来	721人
緩和神経ブロック外来	28人

8) カンファランス症例

手術患者術前カンファランス	235回
手術患者術後カンファランス	235回
症例検討カンファランス	25回

2) 入院患者数

脊髄刺激装置埋め込み術ほか 8人

9) キャンサーボード

なし

3) 手術症例病名別件数

脊髄刺激装置埋め込み術

腰椎手術後症候群	1件
複合性局所疼痛症候群	1件
幻肢痛	1件

くも膜下フェノールブロック

直腸・仙骨腫瘍 がん性痛	1件
--------------	----

腹腔神経叢ブロック

臍腫瘍 がん性痛	4件
----------	----

4) 手術症例病名別治療成績

腰椎手術後症候群	軽快	1件
複合性局所疼痛症候群	軽快	1件
幻肢痛	軽快	1件
がん性痛	軽快	5件

5) 合併症例

なし

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

なし

7) 主な検査・処置・治療件数

手術麻酔

全身麻酔（硬膜外・伝達麻酔併用を含む）	7054件
脊髄くも膜下麻酔（硬膜外麻酔併用を含む）	854件
伝達麻酔・その他	34件

麻酔科外来処置

星状神経節ブロック	28回
三叉神経ブロック	71回
硬膜外ブロック	204回
トリガー注射	259回

4. 2021年の目標・事業計画等

・麻酔業務と教育

高齢化により合併症保有率が上昇、ないし予備能も低下した患者に麻酔管理を行う必要性が求められる近年の傾向に加え、増床した救命センターへの外傷患者の手術依頼も増加し、より複雑で高度化した手術を幅広く行うことが求められている。

これは、日ごろからの自己研鑽と各診療科医師の協力による適切な周術期管理があって初めて可能となることであり、本年は日常からの相互交流、医療職間の勉強会、ローテーションを実施したい。

・手術室業務の効率化・安全確保

昨今国の施策により働き方改革が進められる一方で、高難度手術やコロナウイルス流行による近隣病院の手術制限により、業務量は増加の一途であった。

そこで本年は麻酔科専属クラークの利用や特定行為看護師の育成、医療職間の業務分担を含め、関連業務の効率的な分担・平均化を図り、効率を高めることで安全な手術環境を整備していきたい。

・全身管理能力習得のためのレジデント育成

今後のコロナウイルスの流行が手術に及ぼす影響はまだ流動的で、第3波の時点では確実に緊急手術やICU・HCU入室を前提とした手術は制限されているのが実状である。そこでこれら部門への人材供給面での供給。一般床入室時の全身管理能力を修得する場としての麻酔科の魅力をアピールし、レジデントたちの積極的なローテーションを訴えていきたい。

・無痛分娩の開始

本年中より無痛分娩の開始を予定しており、現在設備や関係者教育を進行中である。